



第18回：アメリカ大統領選挙の仕組み

11月3日(火)に行われるアメリカ大統領選挙までついあと1週間となり、アメリカ国内は選挙の話題で持ち切りです。世界一の大国であるアメリカの次期大統領が決まるこの選挙は、国際的にも重要なイベントであり、世界各国で動向が注視されています。今回の大統領選挙は、共和党の現職・トランプ大統領と、民主党のバイデン氏が次期大統領の座を争っていることは皆さんもご存じかと思いますが、実際の選挙の流れや当選者が決まる仕組みについて詳しく知っているという方は少ないのではないのでしょうか。そこで今回は、アメリカ大統領選挙の仕組みについてお伝えしたいと思います。

選挙の頻度:

アメリカ大統領の任期は4年のため、4年に一度、大統領選挙が行われます。今年はコロナ禍で東京オリンピックは延期となりましたが、通常は夏のオリンピックと同じ年にアメリカ大統領選挙が行われます。大統領は2期まで認められているため、現職の大統領が2期目に当選した場合、最大任期は8年間となります。

大統領に立候補できる人:

アメリカで生まれたアメリカ人であること、35歳以上であること、アメリカに14年以上居住していること、の3つの条件を満たせば、誰でも大統領選に立候補することができます。しかし、19世紀後半以降は共和党と民主党の二大政党制となっていることもあり、現実的に当選を目指すには、これらいずれかの政党に所属していることが条件といえるでしょう。

大統領選挙に投票できる人:

アメリカ国籍を持っていること、18歳以上であること、選挙が行われる州に居住していること、の3つの条件を満たせば、大統領選挙の一般有権者として登録をすることができます。投票するには登録をする必要があります。

大統領選挙の流れ:

- ・2月～6月、予備選挙、党員集会：各政党内での候補者を決める大統領選挙の予選となる。
- ・8月、党大会：正式に各党から一名ずつの候補者が最終指名され、文字通り、一騎打ちの選挙戦が始まる。
- ・9月～10月、本選挙：各候補者が選挙に向けて集会、TV出演、討論会など本格的なキャンペーン活動を行う。
- ・11月、投票日：11月最初の火曜日が一般有権者の投票日。期日前投票や、郵送での投票も可能。

当選者が決まる仕組み 選挙人制度:

一般有権者は、投票用紙に書かれた大統領候補者の名前にチェックを入れて投票します。全米でより多くの一般票を獲得した候補者が大統領になるのかというと、そうではありません。アメリカ大統領選挙は、合衆国憲法により electoral college（選挙人）制度で当選者を定めることが定められており、州ごとに割り当てられた選挙人の数を、どちらの候補者が多く獲得するかで勝敗が決まります。その州の上院議員、下院議員によって構成される選挙人の数は州の人口によって決められており、全米で538人います。そして特筆すべきは、ネブラスカ州とメイン州を除くすべての州が、“勝者総取り方式”を採用しているという点です。つまり、その州で一般有権者から1票でも多くの票を集めた候補者が、その州の選挙人票をすべて獲得するということとなります。

支持を得るべく積極的にキャンペーン活動を行っており、これから 11 月 3 日(火)の投票日までは引き続き激しい選挙戦が繰り広げられることは間違いありません。アメリカ大統領選挙の仕組みを理解した上で、残りの選挙戦の行方を見守っていくと、面白いかもかもしれません。

By 上野 裕美
Fair Consulting USA Inc.
Los Angeles Office

お問い合わせ

Fair Consulting USA Inc.
21250 Hawthorne Blvd, Suite 500, Unit #48, Torrance, CA 90503
Tel: +1-310-792-7059
◇涌井 正晴
Email: ma.wakui@faircongrp.com

「FCG アメリカ ニュースレター」本文の内容の無断での転載、再配信、掲示板の掲載等はお断りいたします。
「FCG アメリカ ニュースレター」で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。フェアコンサルティンググループでは、できる限り正確な情報の提供を心掛けておりますが、「FCG アメリカ ニュースレター」で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、フェアコンサルティンググループ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。